

花菖蒲 & 綾目・文目 (アヤメ)、燕子花 (カキツバタ) の巻

箱根口側から、藤棚を左目に見ながらお茶壺橋を渡って小田原城址に入り、「和みの会」のラジオ体操会場である二の丸跡(城内小学校跡地)に向かうのには途中で右に折れなければならないのですが、今の時期、脚がついつい左を向いてしまいます。左側の花菖蒲園から流れてくる清浄な雰囲気には抗しきれないからです。なんという爽やかさ、「態度や性質がしとやかで上品なさま」を表した形容詞「たおやかさ」はまさにこの花菖蒲のためにあるような気がします。アルトの物静かな声調のコーラスが漂い聞こえてくるような気がしませんか。



「ハナショウブ(花菖蒲)はアヤメ科アヤメ属の多年草で、別名「ハナアヤメ」とも呼ばれます。アヤメ科アヤメ属には、ハナショウブの他にアヤメ、カキツバタといった仲間がいて、これを総称して「菖蒲(アヤメ)」と呼ばれることが多いようです。しかし、端午の節句に菖蒲湯として使われる「菖蒲(ショウブ)」はサトイモ科ですから、全般的に「菖蒲=アヤメ」というわけではないわけです。総称「菖蒲(アヤメ)」の中分類の「アヤメ」も、葉の様子や花の網目模様由来した「文目・綾目」にした方が分かり易そうですね。また、カキツバタは、花の汁が染料として衣服を染めるのに使われたことから呼ばれた「カキツケバナ(書付花)」から転じた和名ですが、これに充てられる「杜若」の漢字表記は本来ツユクサ科の「ヤブミョウガ」でとても「菖蒲(アヤメ)」らしい花姿ではありません。誤って中国から日本に伝えられた訳の分からない「杜若」などいつまでも使っていないで、花の形がツバメの飛ぶ様子に似ていることにちなんで付けられた「燕子花」という中国名を漢字表記に充てたらどうなんでしょうね。従って「いずれが菖蒲(あやめ)かかきつばた」と表現される、姿かたちが良く似ていて「たおやかさ」において甲乙をつけがたいアヤメ属の花々は「花菖蒲 & 文目・綾目(アヤメ)、燕子花(カキツバタ)」と読み書きされるのが筋ではないかと思えます。

“たおやかさ”がない「菖蒲(ショウブ)」や「杜若(ヤブミョウガ)」が混じりこんでいる様子を確認しながら、「同じ百合でも小百合の方は“たおやかさ”があるけれど百合子の方には“たおやかさ”が全くないなあ」と呟いているところに即興俳人の俳号・高幡大馬王殿からオンデマンドで次の句が送られてきました。

むらさきに 負けぬ気迫で 黄菖蒲は 高幡大馬王

えっ黄菖蒲！黄色い菖蒲なんてあるの？と文責担当の私は心配してインターネット検索してみたところ、黄菖蒲は花菖蒲と同じ「アヤメ科アヤメ属の多年草」だということが分かりました。「しかし、それにしても“たおやかさ”に欠けているなあ」と思ったところ、「帰化植物」という表現が見つかりました。「菖蒲（アヤメ）」の原産地は、日本、朝鮮半島、中国、東シベリアといったところですが、学名や英名にギリシャ神話に登場する虹の女神・イリスにちなんで「Iris(アイリス)」が付けられています。国際化が進むうちに「アイリス」が「菖蒲（アヤメ）」にとってかわったのでしょうか。ジャーマンアイリスといった外来種もありますし、西アジアからヨーロッパ原産だというこの黄菖蒲にも「イエローアイリス」という“本名”があります。



俳号・高幡大馬王殿は、体力維持のために近所を散歩した際に、水路に黄菖蒲が咲いているのに出くわし、「花菖蒲と言えど、紫や白が主流だが、“黄色だって負けていないよ〜”という感じを詠んだ」のだそうです。なるほど、「技術系にあらざれば人に非ず」という雰囲気濃厚だった東芝の情報通信システム事業本部にあって、高幡大馬王殿のような技術者は私のような事務系人間にとって羨ましい存在だったのですが、主流のコンピュータ本体系の脇で、周辺装置のOCR(Optical Character Recognition: 光学式文字読取)を担当していた自分を重ね合わせて、紫や白が主流の中で黄色の非主流で頑張っている黄菖蒲を応援したくなったわけですね。ことによると、かの百合子女史も、政治界では非主流だということ意識しているのかなあ。たとえ“たおやかさ”に欠けているにしても、黄菖蒲のように“非支流だって負けていないのよ”と懸命に頑張っている姿を見せてくれれば俳号・高幡大馬王殿に応援の句を詠んでもらえるのにな、

いずれにしても、日本の政治家島には、二世三世議員系、テレビタレント系、元官僚系などの“徒花(あだばな)”が咲き並んでいますが、「どちらも素晴らしく優劣がつけ難い」という意味とともに「見分けることが難しい」という意味がある「いずれが菖蒲(あやめ)かかきつばた」とは真逆で、いずれも主流らしい政治力を発揮しているようには見えません。「アヤメ色」または「菖蒲色」と呼ばれる豊かな色彩感覚を放って梅雨時になると咲き誇るハナショウブ(花菖蒲)、カキツバタ(燕子花)の諸相を以下の通り表示してみました。なおも「見分けることが難しい」かもしれませんが、「どちらも素晴らしく優劣がつけ難く」、「いずれも主流」なのだとお分かりいただけることと思います。

ハナショウブ (花菖蒲)	カキツバタ (燕子花) (科・属) アヤメ科・アヤメ属	アヤメ (文目、綾目)
		
付け根に黄色い模様 面に1本、裏に2本の葉脈あり	付け根に白い(淡黄色)模様 葉脈が目立たずやや幅広い葉	付け根に網目状の模様 葉脈が目立たずやや幅広い葉
池や沼の近くの湿地に生息		草原などの乾いた土地に生息
(開花時期) 5~6月		

草丈 80～100cm	草丈 50～80cm	草丈 30～60cm
<p style="text-align: center;">＜花言葉＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしい知らせ ・あなたを信じる ・心意気 ・優しい心 ・優雅 ・信頼 	<p style="text-align: center;">＜花言葉＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高貴 ・思慕 ・幸運は必ず来る ・幸せはあなたのもの ・贈り物 	<p style="text-align: center;">＜花言葉＞</p> <p>(紫色のアヤメ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい便り <p>(白色のあやめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純粹 ・優しさ ・あなたを大事にします